

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1495300087	事業の開始年月日	平成21年5月1日	
		指定年月日	平成21年5月1日	
法人名	株式会社 日本アメニティライフ協会			
事業所名	花物語 たかつ			
所在地	(213-0031) 神奈川県川崎市高津区宇奈根635-2			
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名	
		ユニット数	2 ユニット	
自己評価作成日	平成23年12月30日	評価結果 市町村受理日	平成24年5月30日	

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>その方の持っている力、能力を引き出し安心・安全に生活が送れるよう、職員には研修等により日々のケアに生かせるようにすること、家族よりの意向を理解し考慮すること、地域とのかかわりや交流により楽しみを見い出すことで支えあい個人の支援に努めている。</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	神奈川県横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成24年1月26日	評価機関 評価決定日	平成24年5月1日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の概要】 この事業所は、JR南武線久地駅から徒歩で12分ほどの「メディカルヴィレッジ（医療と福祉の複合開発）」の一角にある3階建てビルの2、3階にあり、1階は系列デイサービスである。周囲は閑静な住宅地である。ホームは理念である「人生の大先輩である利用者と支え合い、その人らしさを受け止め、気づきのある生活」を支援している。間取りは、フロアを中心に、リビングとトイレ、キッチンがあり、居室を回りに配置し、利用者の生活を見守りやすくしている。リビングは採光が良く、利用者の作品を飾り季節感がある。ゲストルームがあり家族が泊まることができる。</p> <p>【健康管理と医療・看取りの取り組み・安全管理】 看護師による24時間365日の医療連携体制がある。協力医療機関の訪問診療や終末期の看取り体制があり、安心して生活を送ることが出来る。非常災害時の避難訓練を実施し、飲料水・食料の備蓄、防災備品の備えがある。</p> <p>【地域との交流】 地域の一員として、町内会の夏祭りや氷川神社の例大祭に参加したり、町内防犯パトロールでは職員が付き添い、利用者が交替で参加している。ホームの屋上で多摩川花火大会を見物したり、地域の馴染みのボランティアによるハーモニカ、ハンドベルのミニ演奏会があり、歌と踊りを利用者も一緒に楽しんでいる。中学生が流しソーメンを手伝ってくれた。行政と連携し、社会福祉土の実習生を受け入れている。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	花物語たかつ
ユニット名	2階

アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	3. 利用者の1/3くらいの
	4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまにある
	4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36,37)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3. 家族の1/3くらいと
	4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ毎日のように
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまに
	4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている
	2, 少しずつ増えている
	3. あまり増えていない
	4. 全くいない
66 職員は、活き活きと働けている。 (参考項目：11,12)	1, ほぼ全ての職員が
	2, 職員の2/3くらいが
	3. 職員の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が
	2, 家族等の2/3くらいが
	3. 家族等の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
理念に基づく運営						
1	1	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>理念の一つである「お互いを支えあって」は職員、家族、地域との関りも含めており、その方らしさを受け止め、気付きのある生活ができるよう、努めている。</p>	<p>事業所の開設時に、管理者と職員が話し合って作成した4本柱の理念がある。事務室に掲示し「人生の大先輩である利用者と支え合い、その人らしさを受け止め、気づきのある生活」を支援している。スタッフ会議で再確認し、日々の生活の中で理念の実現を図っている。</p>		
2	2	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>町内会に加入し、納涼会や祭り、消防出初式等などに積極的に参加し、近隣周辺の防犯パトロール（週2回の散歩）をする事で、交流をしている。</p>	<p>宇奈根町内会の夏祭り納涼大会や氷川神社の例大祭に参加したり、消防団の出初式を見物している。地域との交流に利用者にも役割を持ってもらうため、町内パトロールは職員が付き添い週2回実施し、車椅子の方も参加している。ホームの屋上で多摩川花火大会を見物する時は、近隣住民にも声をかけている。地域の馴染みのボランティアが訪れ、ハーモニカ、ハンドベルのミニ演奏会があり、歌と踊りでは利用者も一緒に楽しんでいる。中学生の社会実習で流しソーメンを手伝ってくれた。行政と連携しヘルパー2級および社会福祉土の実習生を受け入れている。</p>		
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>認知症の人でもできる事などを理解していただく為、町内会の出初式に積極的に参加し、防犯防止として町内パトロールを行っている。</p>			
4	3	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>行事の報告を通し、日頃の生活や過ごし方などを理解していただく。参加利用者様からも意見をいただき話し合いをしている。</p>	<p>運営推進会議は2ヵ月に1回開催している。出席者は町内会長、民生委員、樹の丘地域包括支援センター職員、利用者、家族、事業所職員である。会議では、事業所の活動状況、外部評価の報告、ボランティア情報、町内防犯パトロール、認知症の紹介を行い、出席者から意見・助言をもらっている。町内会長の協力により、祭りの御輿が立ち寄ってもらえるようになった。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	高津区の地域包括支援センターや高齢者支援課へ定期的に訪問し、相談・情報交換している。	川崎市高津区高齢者支援課とは入居相談を行い、ヘルパー2級および社会福祉士の実習生を受け入れている。地域包括支援センターの高齢者健康体操に参加したり、困難事例や入居の相談を行っている。保健所からは感染症対策の情報をもらっている。神奈川県認知症高齢者グループホーム協議会主催の研修に参加している。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修にて、職員への指導をしている。個別状況については家族を含め話し合いをしている。館内の施錠は行ってはいるが、1階のエントランスは防犯のため職員が閉鎖をしている	身体拘束排除、高齢者虐待防止の研修は毎年計画的に行い、家族とも話し合っている。1階エントランスは防犯のためインターホーンにより職員が開錠している。2、3階ユニット玄関は事務室受付前にあり、施錠せず職員の見守りで自由な暮らしを支えている。居室の施錠は、プライバシーを優先し、利用者の意志に任せている。利用者の家族から事故にならないよう、車椅子に拘束してほしいとの要望があったが、徹底した見守りにより拘束せずに対応している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について学ぶ場を設けたり、情報を得る事で職員も虐待を見過ごさないように意識を高く持つように心掛けている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族より相談があり、提出書類やご本人の精神的支援について職員関係者と話し合いをしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約に関しては、特に話し合いを多く持ち、お互いに納得の上で入居いただいている。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>毎月ご様子の手紙発送と事務所に意見書の設置がある。入居者より神輿見学の要望があり、運営推進会議にて伝え、町会に伝わりコースの変更ができた。行事として運営に反映できた</p>	<p>利用者の意見・要望は「意向・満足度シート」に記入して、個々の要望に対応している。家族の来訪が多く、その都度意見・要望を聞いている。また、普段の暮らしぶりや行事や予防接種などの「お知らせ」の手紙を毎月1回家族に送っている。ユニット玄関には意見箱と記入用紙が置かれ、法人へ直接意見が届く仕組みがある。</p>	
11	7	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>会社全体の運営会議やスタッフ会、社員会を通じて意見や提案を検討しよりよいものにできるよう努めている。往診の記録を看護師との共用紙にし連携がとれるようにした。</p>	<p>スタッフ会議に全職員が出席し、ホームの運営に係わる意見、提案を取り入れている。職員から記録に時間を取られ、利用者に触れる機会が少ないという意見があり、記録用紙の統合（バイタル、入浴、排泄チェック表の統合や主治医の往診記録と看護経過記録などの記録用紙の統合）を行い効率化を図った。また、契約更新時には個人面談で要望を聞いている。スキルアップなどの要望は法人代表が聞く仕組みがあり、研修の参加や資格取得には奨学金支援制度がある。</p>	
12		<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>勤務条件など考慮し雇入れを交わしている。資格手当や土日祝日手当の支給、資格取得支援の奨学金制度もあり整備できている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>社内研修の定期的な実施や外部研修への参加・資格取得を推奨するなど、個々のスキルの向上を働きかけている。</p>		
14		<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>市町村等からの研修等や他施設見学に参加する事により、同業者との情報交換やネットワークを構築するよう努めている。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>利用開始時にはアセスメントをしっかりと、会話の機会を多く持つことで、信頼関係を築けるように努め、どんな事でも話していただけるような関係性を持つようにしている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>ご本人ご家族が困っている事や不安な材料や要望を聞き取るよう常に連絡を取り合い、アセスメントや介護支援計画書に反映させ、安心して利用していただけるように努めている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>認知症の度合いや、おかれている環境を把握し、GHが適切かどうかを考慮して対応している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>ご本人の意思を第一に尊重し、支援できるよう、協力し合いながら生活できるように努めている。</p>		
19		<p>本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>常に家族の意見も反映できるようにし、又、ご本人の情報をご家族とも共有し、一方通行にならないように心がけている。</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>以前通っていた大衆芝居見学へ行ったり、知人が尋ねてきて近くへ散歩に行ったり、孫による理美容等、馴染みの関係が途切れないよう支援している。</p>	<p>馴染みの友人・知人の情報は本人・家族から聴取して、再会の機会を作っている。家族とは行きつけの美容院や墓参りに出かけている。孫に連絡しヘアカットに来てもらったり、友人への電話の取り次ぎをしている。年賀状には本人に名前だけを書いてもらい、職員が投函している。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>誕生日会、季節の行事等では、入居者様同士の親睦を図るため合同で行っている。違うフロアでも気軽に会話ができるよう支援している。</p>		
22		<p>関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>利用終了の際は、必要とする情報や支援を本人・家族に提供するようにし、入院があれば見舞いも行き、手紙の発信により、良い関係性を継続できるように努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	その時々にて食べたい物があれば買い物に行く等対応する。化粧水や整髪料等生活用品、こだわり品は自分で選んでいただけるよう支援すると共に個人の自立性を大切にしている。	本人の利用前の暮らし方や希望・意向は自宅で家族に聞き、利用後の意向は半年～1年ごとに計画作成担当者がアセスメントに追記している。意向を把握しにくい方には、居室担当職員が表情・行動から読み取るようにしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用に至る経緯や生活環境など、職員間で情報共有し入居してからも、今までの生活習慣が可能な限り継続できるよう努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員一人ひとりが、利用者の現状をしっかりと把握し、必要な支援について個別ケアに努め、話し合い対応している。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向に近づいた介護計画にする為にも、ご本人との会話を大切にし、面会時家族や担当者会議にて職員からの情報を多く得て、作成にあたっている。	利用者・家族の意向を聞き、看護師を含む全職員でケアカンファレンスを行い、医師の意見を反映して、個別具体的な介護計画を作成し、家族に説明し同意をもらっている。適宜モニタリングを行い、見直しは3～6ヶ月ごとに行い、心身の状態の変化があれば随時見直している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	時間ごとにご様子が記録できる書式により、日々の細かな情報や気づきを残す事が職員間の共通理解、共通ケアとなり、介護計画に反映させている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に現状必要なサービスは何であるかを考え、次につなげるサービスがあればつなげていくように取りくんでいる。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域自慢の梨狩りへの参加や川崎市主催花火大会の館内見学を通して、心身の力を発揮し豊かな暮らしを楽しんで頂くよう支援している。		
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の定期往診を受けている。心身状態について家族や主治医と常に連携を取り、本人が適切な医療を受けられるよう支援している。	利用者全員が協力医院（内科、脳神経内科、皮膚科）の主治医と歯科医院の往診（ともに月に2回）を受けている。医療連携体制の看護職員（週に1回）による健康管理が行われている。整形外科、眼科の受診には家族が付き添っている。	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の看護職員による看護経過記録紙をもとに、職員への適切な指導を行う。主治医との共通の用紙でもあり、連携できている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中のお見舞いや家族との連絡を取る事により、本人の状態を把握するよう努めている。医師の説明等に同席し医療従事者とも関係し支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	指針について入居時に説明し同意を交わしている。家族の意向を確認している。病気発見時は家族の協力を得る為早い段階より十分に話し合い、主治医との連携をとり支援に取り組んでいる。	契約時に、利用者や家族に「急変時や重度化した場合の対応指針」で事業所の方針を説明し、同意を得ている。重度化した場合は、関係者（利用者・家族、医師、看護師、事業所）で意思確認を行い、看取りの対応を確認することで、安心感をもってもらえるよう配慮していく方針である。これまでに、看取りの実績はないが、職員研修は実施している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修にて急変対応や事故対応の研修を行い、発見時の対応や報告、状況等事例や対策をたて、職員全員が対応できるように努めている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間時火災想定・日中災害想定で消防署指導で訓練を実施。メディカルビレッジ敷地内では災害時応援等の協力を得ている。災害時備蓄品も備えている。	消防署に届け出をし、夜間想定避難訓練を年に2回定期的実施している。時には消防署の立ち合いもある。メディカルヴィレッジの中（系列デイサービス、医院、薬局）での応援体制があり、町内会の消防団もすぐに来てくれる。非常災害用飲料水・食料の備蓄や防災備品の備えがある。	非常災害用備蓄はありますが、3日分程度賄える量の飲料水、食料の確保のほか、備品の再点検を望みます。
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシー 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩であるという事を常に意識し、言葉使いに配慮している。着脱の順番も個人を尊重し対応している。介助拒否があり移乗難しい方は声かけ等行い立位の工夫をしている。	利用者の契約時と職員採用時に、個人情報保護の説明を行い、同意書・誓約書を取り交わしている。個人情報に関する重要書類はキャビネットに施錠保管している。職員にはプライバシー保護の研修を毎年行い、利用者の人格を尊重することを学習し実践している。訪問調査日の職員の接遇は丁寧であり、トイレ誘導も穏やかであった。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	危険な行為、言葉や他の方々には不快感や不穏な状態、健康状態の支障にならない限り、自己決定できる支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や更衣や配膳の手伝い等、可能な限りご本人の意向を優先している。就寝時間も体調等に配慮し時間は決めていない。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の意志や希望を尊重しながら、季節やTPOに合った身だしなみができるよう支援している。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの好みやできる力を把握し、職員まかせでなく協力して作業を行うよう心掛けている。楽しみなものになるようホットプレートの利用や外での食事も行っている。	食材・レシピは業者の宅配である。職員が調理し、バランスのとれた食事を提供している。時には、買い物に行き利用者と一緒に調理している。利用者の希望を聞き、出前をとったり、ファミリーレストランで外食することもある。配膳・下膳・片付けは利用者も一緒に行っていた。職員は見通しの良いキッチンで見守りながら調理し、介助が必要な方には、職員が横に座り手伝っていた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によるバランスの摂れたメニューにより調理を行っている。食事量減少時は他食品や調理での工夫で補う。水分は時間や品物を変え補給している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個別に応じたケアを実践している。毎食後、職員による声掛けや介助により、利用者の口腔ケアを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	記録により排泄パターンを把握し、トイレでの排泄が出来るよう、誘導や声掛けを行い、個別ケアに努めている。	排泄チェックシートにより、個々の排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるように誘導している。尿失禁があった場合でも、尿とりパッドにはせず、パターンをよみ、綿パンツ利用のままトイレに誘導している。失禁時はさりげなくトイレで着替え、洗浄している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの食事量、水分量を把握し、排泄の記録を残す事で、便秘の早期発見と予防に努めている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ご本人の意志を尊重し体の状態も考慮し、気分良く入る声掛を工夫している。拒否がある場合はその方に合わせた声掛けや誘導をしている。入浴剤やゆず、菖蒲湯でも楽しんでいる。	入浴は週に2~3回であるが、自立の方はいつでも入浴できる。入りたがらない方には「薬をぬりましょう」と浴室へ誘い、自分で服を脱いでもらったり、相性の良い職員と一緒に入りましょと、声かけ誘導している。入浴剤、ゆず湯、菖蒲湯などにより、家ではシャワーのみだった方が、浴槽に入るようになり、入浴を楽しんでもらえるようになった。浴室の暖房にも配慮している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間安眠して頂けるよう、日中のお過ごしにも考慮し支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は特に配慮をし、症状の変化や経過などは主治医へ必ず報告し、連携に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誰かの役に立つ事で生活に張り合いを感じて過ごせるよう支援に努めている。パトロールも散歩ではあるが、近隣の防犯として役にたっている事を入居者には伝えている。			
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り外出を支援している。近隣の散歩や通勤用車を使用し、動物園やばら苑へ出かけた。おやつ時にはファミレスへも出かけている。	近くの散歩コース（多摩川の土手、桜緑地、町内1周）に、週に2回は出かけている。車椅子の方は、玄関前で日光浴をしている。近くの梨園で梨狩りをしたり、ばら苑や動物園に出かけたりしている。利用者にも役割を持ってもらうため、町内の防犯パトロールに週2回職員が付き添っている。車いすの方も参加している。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は主に事業所で行っているが、近くのスーパーや商店での買い物が楽しめるよう支援している。自己管理にて所持している方もいて、見守っている。			
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事業所設置の電話の利用や手紙のやり取りなど、家庭的な雰囲気味わえるよう、可能な限りで対応している。			
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関とフロアには毎週季節の花を飾り楽しんでいる。フロアの壁には季節の絵や思い出の写真や本人作品等飾り、通るたびに会話が生まれている。	ホームの間取りは、フロアの中心に、リビングとトイレ、キッチンがあり、居室を回りに配置し、利用者の生活を見守りやすくしている。玄関やリビングには、生花や花の切り絵等の利用者の作品を飾り、季節感を創出している。採光が良く、明るいいリビングにはソファを置いて、くつろげるスペースを作っている。輪投げやパズルが置かれ、皆で懐かしい歌を歌っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファにてくつろいだり、談話をしている。ご本人の意思を尊重し自由に過ごしていただいている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具やお気に入りの写真（アルバム等）や置時計などお持ちいただき、そばに置く事により、安心して居心地よく生活できるよう、家族と一緒に工夫をしている。	居室はエアコン、照明、洗面台、クローゼット、ベッドが備え付けられている。利用者はテレビや使い慣れた机、椅子、馴染みの人形、家族の写真、仏壇などを持ち込んで居心地よく暮らしている。職員が居室の様様替えの手伝いをしている。居室の入り口には花の絵と名前が描かれた表札が掛けられている。家族が訪れ食事やおやつを楽しんでいる。ゲストルームがあり、家族が泊まることできる。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内設置の洗面台では口腔ケアや整髪、身だしなみ等自分でできるよう、個別性を重視した環境を目指し自立した生活が送れるよう支援している。		

事業所名	花物語たかつ
ユニット名	3階

アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	3. 利用者の1/3くらいの
	4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまにある
	4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36,37)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3. 家族の1/3くらいと
	4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ毎日のように
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまに
	4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている
	2, 少しずつ増えている
	3. あまり増えていない
	4. 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11,12)	1, ほぼ全ての職員が
	2, 職員の2/3くらいが
	3. 職員の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が
	2, 家族等の2/3くらいが
	3. 家族等の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の一つである「お互いを支えあって」は職員、家族、地域との関りも含めており、その方らしさを受け止め、気付きのある生活ができるよう、努めている。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、納涼会や祭り、消防出初式等などに積極的に参加し、近隣周辺の防犯パトロール（週2回の散歩）をする事で、交流をしている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人でもできる事などを理解していただく為、町内会の出初式に積極的に参加し、防犯防止として町内パトロールを行っている。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事の報告を通し、日頃の生活や過ごし方などを理解していただく。参加利用者様からも意見をいただき話し合いをしている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	高津区の地域包括支援センターや高齢者支援課へ定期的に訪問し、相談・情報交換している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>社内研修にて、職員への指導をしている。個別状況については家族を含め話し合いをしている。館内の施錠は行ってはいるが、1階のエントランスは防犯のため職員が閉鎖をしている</p>		
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待について学ぶ場を設けたり、情報を得る事で職員も虐待を見過ごさないように意識を高く持つように心掛けている。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>家族より相談があり、提出書類やご本人の精神的支援について職員関係者と話し合いをしている。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約に関しては、特に話し合いを多く持ち、お互いに納得の上で入居いただいている。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>毎月ご様子の手紙発送と事務所に意見書の設置がある。入居者より神輿見学の要望があり、運営推進会議にて伝え、町会に伝わりコースの変更ができた。行事として運営に反映できた</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会社全体の運営会議やスタッフ会、社員会を通じて意見や提案を検討しよりよいものにできるよう努めている。往診の記録を看護師との共通用紙にし連携がとれるようにした。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務条件など考慮し雇入れを交わしている。資格手当や土日祝日手当の支給、資格取得支援の奨学金制度もあり整備できている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修の定期的な実施や外部研修への参加・資格取得を推奨するなど、個々のスキルの向上を働きかけている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市町村等からの研修等や他施設見学に参加する事により、同業者との情報交換やネットワークを構築するよう努めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始時にはアセスメントをしっかりととり、会話の機会を多く持つことで、信頼関係を築けるように努め、どんな事でも話していただけるような関係性を持つようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>ご本人ご家族が困っている事や不安な材料や要望を聞き取るよう常に連絡を取り合い、アセスメントや介護支援計画書に反映させ、安心して利用していただけるように努めている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>認知症の度合いや、おかれている環境を把握し、GHが適切かどうかを考慮して対応している。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>ご本人の意思を第一に尊重し、支援できるよう、協力し合いながら生活できるように努めている。</p>		
19		<p>本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>常に家族の意見も反映できるようにし、又、ご本人の情報をご家族とも共有し、一方通行にならないように心がけている。</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>以前通っていた大衆芝居見学へ行ったり、知人が尋ねてきて近くへ散歩に行ったり、孫による理美容等、馴染みの関係が途切れないよう支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	誕生日会、季節の行事等では、入居者様同士の親睦を図るため合同で行っている。違うフロアでも気軽に会話が出来よう支援している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了の際は、必要とする情報や支援を本人・家族に提供するようにし、入院があれば見舞いも行き、手紙の発信により、良い関係性を継続できるように努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	その時々にて食べたい物があれば買い物に行く等対応する。化粧水や整髪料等生活用品、こだわり品は自分で選んでいただけるよう支援すると共に個人の自立性を大切にしている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用に至る経緯や生活環境など、職員間で情報共有し入居してからも、今までの生活習慣が可能な限り継続できるよう努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員一人ひとりが、利用者の現状をしっかりと把握し、必要な支援について個別ケアに努め、話し合い対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>本人や家族の意向に近づいた介護計画にする為にも、ご本人との会話を大切にし、面会時家族や担当者会議にて職員からの情報を多く得て、作成にあたっている。</p>		
27		<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>時間ごとにご様子が記録できる書式により、日々の細かな情報や気づきを残す事が職員間の共通理解、共通ケアとなり、介護計画に反映させている。</p>		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>常に現状必要なサービスは何であるかを考え、次につなげるサービスがあればつなげていくように取りくんでいる。</p>		
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域自慢の梨狩りへの参加や川崎市主催花火大会の館内見学を通して、心身の力を発揮し豊かな暮らしを楽しんで頂くよう支援している。</p>		
30	11	<p>かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を楽しみながら、適切な医療を受けられるよう支援している</p>	<p>月2回の定期往診を受けている。心身状態について家族や主治医と常に連携を取り、本人が適切な医療を受けられるよう支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	週1回の看護職員による看護経過記録紙をもとに、職員への適切な指導を行う。主治医との共通の用紙でもあり、連携できている。		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	入院中のお見舞いや家族との連絡を取る事により、本人の状態を把握するよう努めている。医師の説明等に同席し医療従事者とも関係し支援している。		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	指針について入居時に説明し同意を交わしている。家族の意向を確認している。病気発見時は家族の協力を得る為早い段階より十分に話し合い、主治医との連携をとり支援に取り組んでいる		
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	社内研修にて急変対応や事故対応の研修を行い、発見時の対応や報告、状況等事例や対策をたて、職員全員が対応できるように努めている。		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	夜間時火災想定・日中災害想定で消防署指導で訓練を実施。メディカルビレッジ敷地内では災害時応援等の協力を得ている。災害時備蓄品も備えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩であるという事を常に意識し、言葉使いに配慮している。着脱の順番も個人を尊重し対応している。介助拒否があり移乗難しい方は声かけ等行い立位の工夫をしている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	危険な行為、言葉や他の方々に不快感や不穏な状態、健康状態の支障にならない限り、自己決定できる支援をしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や更衣や配膳の手伝い等、可能な限りご本人の意向を優先している。就寝時間も体調等に配慮し時間は決めていない。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の意志や希望を尊重しながら、季節やTPOに合った身だしなみができるよう支援している。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの好みやできる力を把握し、職員まかせでなく協力して作業を行うよう心掛けている。楽しみなものになるようホットプレートの利用や外での食事も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>栄養士によるバランスの摂れたメニューにより調理を行っている。食事量減少時は他食品や調理での工夫で補う。水分は時間や品物を変え補給している。</p>		
42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>個別に応じたケアを実践している。毎食後、職員による声掛けや介助により、利用者の口腔ケアを行っている。</p>		
43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>記録により排泄パターンを把握し、トイレでの排泄が出来るよう、誘導や声掛けを行い、個別ケアに努めている。</p>		
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>一人ひとりの食事量、水分量を把握し、排泄の記録を残す事で、便秘の早期発見と予防に努めている。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>ご本人の意志を尊重し体の状態も考慮し、気分良く入る声掛けを工夫している。拒否がある場合はその方に合わせた声掛けや誘導をしている。入浴剤やゆず、菖蒲湯でも楽しんでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>夜間安眠して頂けるよう、日中のお過ごしにも考慮し支援している。</p>		
47		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>服薬は特に配慮をし、症状の変化や経過などは主治医へ必ず報告し、連携に努めている。</p>		
48		<p>役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>誰かの役に立つ事で生活に張り合いを感じて過ごせるよう支援に努めている。パトロールも散歩ではあるが、近隣の防犯として役にたっている事を入居者には伝えている。</p>		
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>可能な限り外出を支援している。近隣の散歩やコンピューターを使用し、動物園やばら苑へ出かけた。おやつ時にはファミレスへも出かけている。</p>		
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭管理は主に事業所で行っているが、近くのスーパーや商店での買い物が楽しめるよう支援している。自己管理にて所持している方もいて、見守っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>事業所設置の電話の利用や手紙のやり取りなど、家庭的な雰囲気が味わえるよう、可能な限りで対応している。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関とフロアには毎週季節の花を飾り楽しんでいる。フロアの壁には季節の絵や思い出の写真や本人作品等飾り、通るたびに会話が生まれています。</p>		
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い通りに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ソファにてくつろいだり、談話をしている。ご本人の意思を尊重し自由に過ごしていただいている。</p>		
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>馴染みの家具やお気に入りの写真（アルバム等）や置時計などお持ちいただき、側に置く事により、安心して居心地よく生活できるよう、家族と一緒に工夫をしている。</p>		
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室内設置の洗面台では口腔ケアや整髪、身だしなみ等自分でできるよう、個別性を重視した環境を目指し自立した生活が送れるよう支援している。</p>		

目 標 達 成 計 画

事業所名

花物語たかつ

作成日

平成24年4月30日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	非常災害用備蓄はあるが、3日分程度である。他に飲料水、食料を確保し、災害に備える等が必要。	備蓄の他に、水（飲料水、トイレ用、煮炊き用）の確保。他の食料等の確保により、災害時に備える。	備蓄の他に、水（飲料水、トイレ用、煮炊き用）の用意。食料（レトルト等）の用意をし、災害に備える。	1年間
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。